

自律神経症状

白井病院
脳神経内科 奥村 一哉

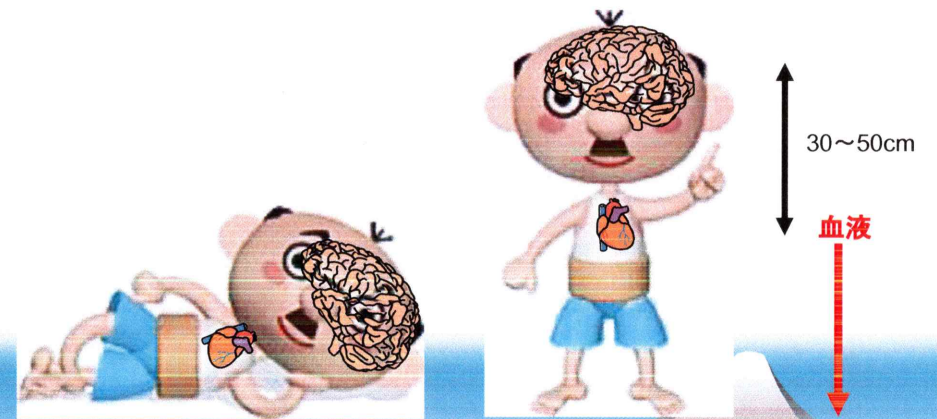
自律神経障害

- **血圧の変動**
起立性低血圧症(立ち眩み・めまい)・臥位高血圧症・一過性高血圧症
食後性低血圧症(食中・食後の傾眠・入眠)
- **消化管運動障害**
便秘, 腹部膨満, 腸閉塞, 軟便, 下痢
- **発汗障害・体温調節障害**
発汗過多・部分的低下, 微熱, 火照り, 脂漏顔, 夏期脱水症
- **排尿障害**
頻尿, 尿意切迫, 排出障害, 尿失禁, 尿閉
- **末梢循環不全・心拍数の変動**
下肢の浮腫, 手足の冷感, 動悸(頻脈)・徐脈
- 心臓交感神経末端の障害(MIBG心筋シンチの心集積の低下)

血圧の変動

- 起立性低血圧症
(立ち眩み・めまい)
- 臥位高血圧症
- 一過性高血圧症
- 食後性低血圧症
(食中・食後の傾眠・入眠)

起立性低血圧症が何故起こるか



血圧変動主に低血圧症の対応

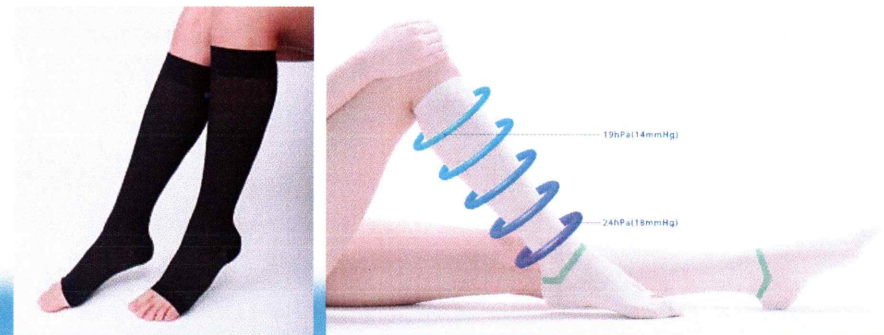
薬物

- 降圧剤の減量・中止
- 昇圧剤の使用:ミドドリン, アメジニウムetc.

非薬物

- 十分な水分やミネラルの摂取(飲水による昇圧作用)
- 適度の運動
- 炭水化物(糖質)の少量摂取を頻回に
- 入浴後の座位での着衣
- 起きる時にゆっくりと起き上がる, 電動ベッドの利用
- 弾性ストッキング

弾性ストッキング



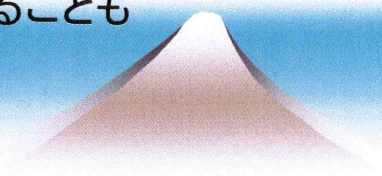
血圧変動において

- 転倒・骨折の原因となります。
- 経過中によく見られることですので, 慌てず, 数値ではなく, 本人の状態を判断して下さい。
- 病初期には高血圧症でも, 経過と共に低血圧症になることが多い。
- 血圧が高い場合は座位(座る)を, 血圧が低い場合は臥位(横になる)を


消化管運動障害

- 腸管運動の低下
便秘, 腹部膨満, 腸閉塞
- 腸管運動の亢進
軟便, 下痢

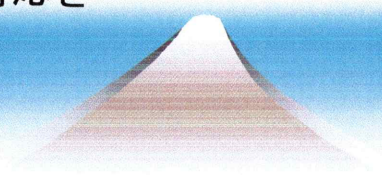
消化管運動障害の対応

- 下剤・整腸剤の調整, 浣腸
 - 規則的な食生活
 - 十分な水分摂取
 - 繊維成分の多い食品の摂取
 - 適度な歩行を中心とした運動
 - 進行すると腸閉塞になることも
- 

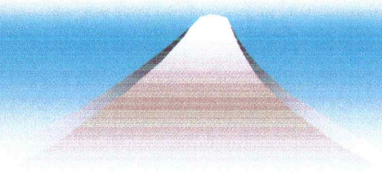
発汗障害・体温調節障害

- 発汗過多
 - 脂性, 脂漏顔(油っぽい顔)
 - 発汗低下, 汗の部分的低下
 - 微熱, 火照り
 - 冷感
 - 夏期脱水症
- 

発汗障害・体温調節障害の対応

- 十分な水分やミネラルの摂取
 - エアコン等の室温調整・衣類での調整
 - 他の人との温度感覚の違いがある
(患者さんに合わせるか, 家族に合わせるか)
 - 微熱(発熱)がみられる時は, 慌てず,
本人の状態にあわせた対応を
- 

排尿障害

- 頻尿
 - 尿意切迫
 - 排出障害
 - 尿失禁
 - 尿閉
- 

排尿障害の対応

頻尿期

- 頻尿治療薬
- トイレへ移動時の転倒に注意した環境調整

残尿・尿閉期

- 間歇的自己導尿
- バルンカテーテル留置



下肢の浮腫への対応

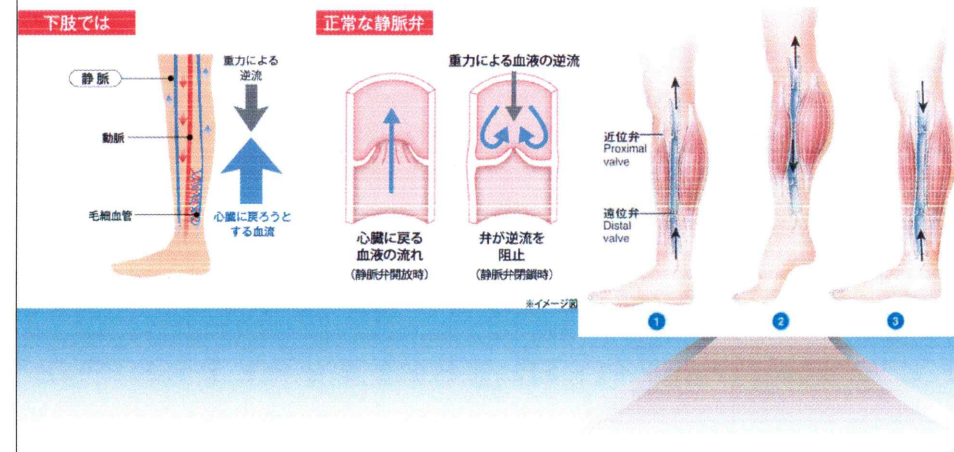
下肢の静脈への血液のうっ滞(溜まること)が中心であるので、流れを良くするためには

- 適度な運動
- 足枕(足を心臓よりも高くする)
- 十分な水分やミネラルの摂取
- マッサージ

末梢循環不全・心拍数の変動

- 下肢の浮腫(むくみ)
- 手足の冷感
- 動悸(頻脈)
- 徐脈

静脈還流



手足の冷感への対応

加齢による動脈硬化＋末梢の動脈の血行不良

- 血管拡張剤(動脈を広げる薬剤)
- 適度な運動
- 十分な水分やミネラルの摂取
- 温水浴

動悸(頻脈)・徐脈への対応

脈拍数に変動し、動悸を自覚することがありますが、すぐにどうこうなるわけではないので、そのまま経過を見ることが多いです。

不安になると頻脈になることが多いので、私の場合、安定剤を出すこともあります。

但し、徐脈が続く場合は、循環器の先生に相談することがあります。

パーキンソン病の自律神経障害の 症状

・

更年期障害, 自律神経失調症等に
みられる症状

次回

令和2年10月上旬

精神症状